

まちづくりの総合戦略「メインストリート・プログラム」 の導入について（新規）

中心市街地の疲弊が全国的に進んでいます。アメリカでは「メインストリート・プログラム」という手法で、現在40を超える州の2000以上の中小都市がまちづくりに取り組み、中心市街地・ダウンタウンの再生に効果を上げています。

「メインストリート・プログラム」は1980年代に開発された活性化策で、決して新しいものではありませんが、連邦政府レベルの中核組織「メインストリート・アメリカ」を頂点に各州に設置されたコーディネイト組織が中小都市の参画コミュニティの取り組みを支援するという確固としたコンセプトを持ったまちづくり手法であり、特筆すべきは4万人から6万人クラスの小さな都市のダウンタウンが再生していることです。

「メインストリート・プログラム」推進に当たっては「地域の人的資産の活用」と「地域資産である歴史的建造物、伝統、文化、個性などの活用」の二つを基本理念として、共通の戦略と行動指針のもと、各地域コミュニティの個性と実態に合わせたまちづくりが展開されています。

日本のまちづくりや中心市街地活性化については地方創生の大きな課題として、国や地方自治体も各種施策を講じられていますが、地域間競争でなく各地域が自立して共に再生していくためには「メインストリート・プログラム」のような一本柱の通った戦略が必要と考えます。

日本版「メインストリート・プログラム」を導入され、国レベルの中心市街地活性化、まちづくり手法による地域創生を進めていただくよう要望いたします。